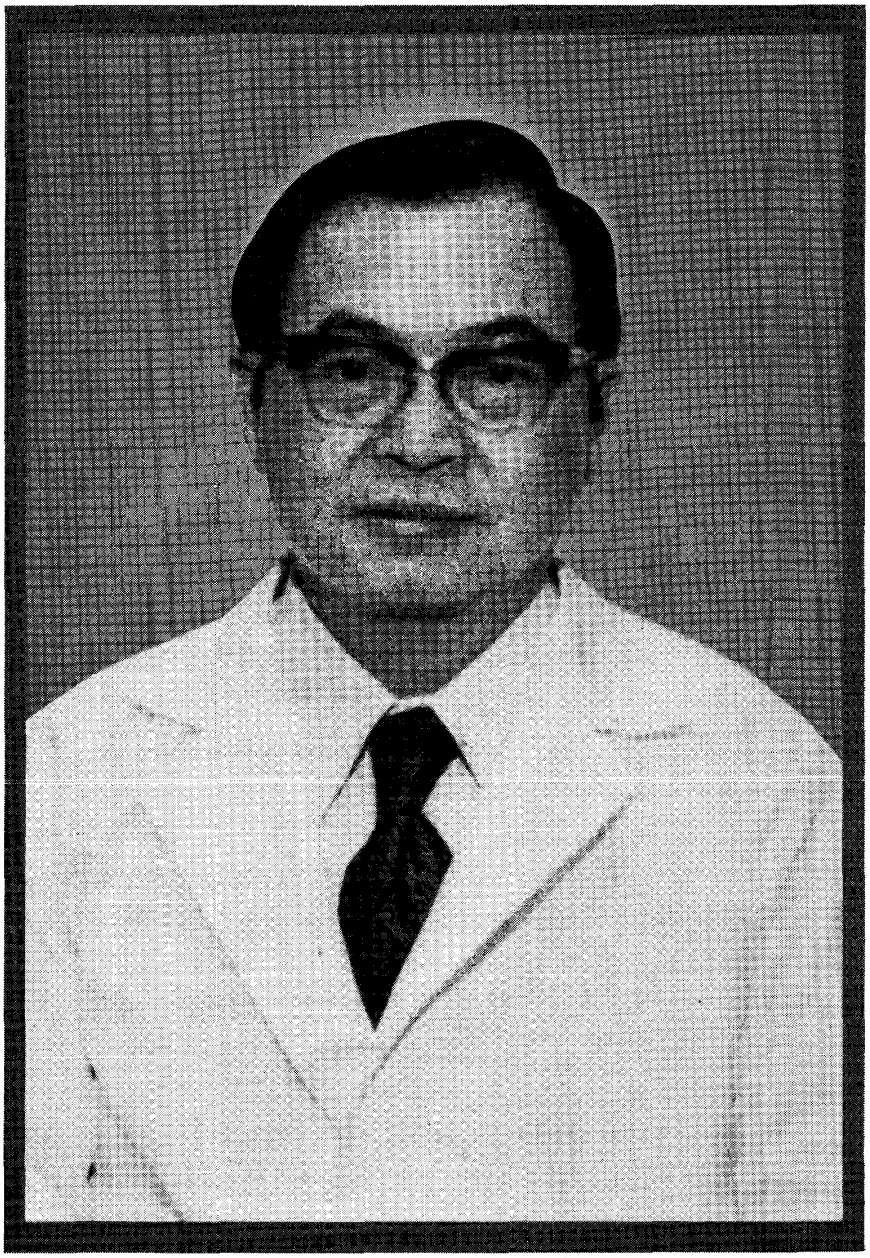

字内　玄先生を悼む

本学教授字内玄博士は昭和49年２月８日，心筋梗塞のため52才をもって急逝されました。

日頃お元気で前日までご一緒にＡ考査の採点をしていた私どもには，２月４日入院されたとの報に驚き一日も早く回復されることを願っておりましたが，ご逝去の知せに唯々茫然と深い悲しみにうたれるのみでありました。ここに謹んで哀悼の意を表する次第であります。

先生は旧性を陳震東といわれ，台湾台南市にご出生，昭和21年９月に京都府立医科大学をご卒業後同病理学教室で副手，助手として研究に従事，昭和27年に講師に任ぜられ，昭和47年４月本学に就任されるまで，講義，実習および病理解剖などの指導に功績をあげられました。

先生のご研究は多方面にわたりますが，主として細胞および組織化学に属するものであり，これを大別するとビタミン関係，ラジオオートグラムによる無機質，核酸などの代謝関係，神経病理および公害関係と広範におよび，これらは３編の著書，50編余の綜説，講座，研究報文，100報以上の学会報告となり，先生のご業績は広く内外の学会で認められております。

先生は荒木教授の下で細胞組織化学的なビタミン証明法の開発を研究，ビタミンB_1の顕微螢光測光の手技を確立されこの方法は今日でもビタミン研究の一分野として広く利用されています。先生はこのうち生物界におけるB_1の局在，消長および利用についての論文で，昭和26年１月医学博士の学位を授与され，このほかビタミンB_2，B_6，B_{12}，C，葉酸，A，D，K，Eなどの組織化学的測定法，アイソトープの利用によるこれらビタミンの欠乏症にともなう諸臓器，神経組織の変性過程の研究，その他二酸化窒素，一酸化炭素，亜硫酸ガスなど大気汚染に関する病理組織学的研究，解剖医としてのスモン病その他の剖検例に関する多くの報告など，各方面の研究者と連係して広範な業績を残されております。

本学にこられてからも PCB の毒性に関する研究や，グルタミン酸ナトリウムの過剰摂取の問題などに取りくまれ，その成果が期待されていました。尚先生には昭和30年頃から両三度にわたり，台湾，台北学院，高雄医学院の教授に擬せられたこともあり数回にわたり集中講義に渡台されたこともありました。

先生には昭和48年の３月日本に帰化，宇内玄と改性され，お名前の示すごとく内外にむけてご研究を発展させようと日夜休むことなく実験にうち込んでおられた先生の面影は，私どもの脳裏に残っております。

先生は本学に就任後僅か二年の短期間でありましたが，学生の教育に，学術の研究に確固たる信念と自信にみちた態度で心血をそそがれ，その温顔とともに学生の敬愛の的であり，我々教員の範とするところでありました。

先生の幅広いご活動が心身を消耗しつくして，ご活躍の途中に若くしてお亡りになりましたことは，まことに口惜しく悲しいことであります。我々は先生の生前のご意志を体し食物学の発展に邁進し，先生の霊をお慰めしたいと存じます。ここに食物学会を代表して先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

昭和49年10月　　新　納　英　夫　記